

## 令和２年度秋田県健康づくり審議会歯科保健分科会議事録

### 1 日時

令和３年３月９日（火）午後２時００分～午後４時００分

### 2 場所

議会棟２階 特別会議室

### 3 出席者

委員名簿参照

（福田委員は欠席、五十嵐委員は都合により１時間ほどで退席）

### 4 配付資料

資料１：令和２年度歯科保健対策施策報告書（案）

資料２：コロナ禍でも定期的に特定健診・がん検診

資料３：秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例の一部改正について

資料４：コロナ禍におけるフッ化物洗口について

資料５：コロナ禍における親子よい歯のコンクールについて

資料６：コロナ禍における８０２０いい歯の表彰について

参考資料１：秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例（改正後全文）

参考資料２：新型コロナウイルス緊急事態宣言下における集団フッ化物洗口の実施について（一般社団法人日本口腔衛生学会）

参考資料３：給食後の歯みがきスタイル指導（日本学校歯科医会）

参考資料４：おとな＆子どもの健口づくりリーフレット

### 5 内容

（１）開会

（２）あいさつ

（３）出席者紹介

#### (4) 会長選出及び会長代理指名

会長は県歯科医師会の藤原委員が選出され、会長代理は県学校保健連合会の佐々木委員が指名された。

#### (5) 報告

##### ①令和2年度歯科保健対策施策の実施状況について

##### 【議事の進行は藤原委員】

##### (健康づくり推進課 田所技師)

(資料1について報告)

##### (歯科医師会 藤原委員)

ここまでで、質問や意見をいただきたい。

##### (栄養士会 明石委員)

私は主に高齢者に関わっている。フレイル予防で口についても関わっているので次年度の活動にも期待したい。

##### (医師会 五十嵐委員)

乳幼児のむし歯のない割合が全国レベルより低いとのことだが、生まれた直後から幼稚園・保育園に入る前の段階が重要ということになるのではないかな。そうすると若いお父さんやお母さんが対象となる。そこへどのようにアプローチしていくかが重要ではないかな。出産する段階で、病院や診療所の産婦人科等でしっかり歯の健康について対応してもらいなどのアプローチが必要なのではないかな。

##### (牛島ルンビニ園 石井委員)

保育園勤務なので私が接しているのは主に子ども達になる。当園でもコロナの影響で例年6月に行っている歯科健診が今年度に関しては秋にずれ込んだが、まずは健診ができ、子ども達の状況を保護者へ伝えることができたのでよかった。フッ化物の事業等についてこれから皆さんの話を伺って参考にしたい。

##### (小・中学校長会 伊藤委員)

初めてこの会に参加する。小中学校では10年ほど前からフッ化物洗口を実施しており、どんどん成果が上がっていると聞く。この度コロナ禍で臨時休校が明けたときに、一旦フッ化物洗口はストップというところからスタートした。また、給食後の歯みがきは、うがいを低い位置からするようになど工夫して行ってきた。フッ化物洗口も7月ころから開始

しており通常に戻ってきたが、遅れていた歯科健診を9月に実施したところ、学校歯科医からコロナの影響で自宅でお菓子などを食べる時間が増えたり、歯磨きも十分にできていなかった影響もあり、むし歯が目立ったと言われた。前年度よりもむし歯が多くなっているとのことで、このようなところにもコロナの影響がでているのだと感じた。今後、体勢を立て直してむし歯の予防をしていきたい。

**(学校保健連合会 佐々木委員)**

今年度は制約のある中での活動ということで、思うように実績を上げることはできなかったと思う。公衆衛生的な仕事というのは、人と人が対面して行うことが多い。来年度どのような状況になっているかわからないが、工夫しお互いに良い活動ができればと思う。

**(社会福祉協議会 鈴木委員)**

仕事では高齢者を対象としているため、子どものことはよくわからなかったが、資料を見て子どもへの対策等参考にさせてもらった。一つ伺いたいのが、フッ化物洗口実施施設割合で秋田市の保育園・こども園が課題となっているとのことだが、具体的にどのようなことか教えていただきたい。

**(健康づくり推進課 田所技師)**

秋田市の場合、小学校、中学校では100%実施しているが、こども園、保育園、幼稚園等では、ぶくぶくうがいができる年代でもフッ化物洗口を実施している施設がない。他の市町村では幼稚園等でも実施しているところが多くある。秋田市で実施を進めるにあたってどのようにしたらよいか、市の担当等とも議論しているが、解決すべき課題を明確にできていないところもある。

**(歯科医師会 藤原委員)**

学校であれば文科省からという形でお願いできるが、私立となるとなかなか難しい。独自の考えを持っている方もいると思う。秋田市の保健所がどう捉えているのかなとも思う。

**(歯科医師会 畠山委員)**

今年度の歯科健診事業も無事に終了し、保健所、学校などの方々の協力に感謝する。今年度の良かった点、問題点等を把握して、来年度の健診事業も安全に行っていきたい。

**(看護協会 吹谷委員)**

今回はじめて参加させてもらい、乳幼児はこのような状況かと勉強させてもらった。どちらかというとフレイル、オーラルフレイルについてや摂食嚥下を中心に高齢者向けにケアをすることが多い。特に認知症と歯の本数は関係が深いと言われている中で、8020運動の認知度が低いということがわかった。我々も一緒に考えていかなければならないと思う。

**(歯科医師会 藤原委員)**

8020の達成は全国では約5割で、秋田県に関しては2割弱となっているが、来年度調査を実施する予定なので、数値はまた変わると思う。

**(歯科衛生士会 甫仮委員)**

乳幼児歯みがきハンドブックを活用した研修会についてだが、参加者の対象は市町村職員とのことだが、市町村の歯科衛生士は少ないと思う。私も由利本荘市で乳幼児健診等に関わっているが、研修会開催の話を聞かない。他の市町村にも同じように事業委託されている歯科衛生士がいると思うので、参加できるよう市町村の方に伝えてもらいたい。

**(健康づくり推進課 田所技師)**

市町村では保健師や管理栄養士等の歯科専門職以外が歯科保健担当であることも多く、その方々の資質向上を目的とした研修会であったため、歯科保健指導のプロである歯科医師や歯科衛生士にお声掛けしていなかった。今後は研修会について広く周知できるよう検討させていただく。

**(歯科衛生士会 甫仮委員)**

保健師と歯科に関わる方、他市町村との情報共有という意味でも是非お願いしたい。

**(健康づくり推進課 田所技師)**

承知した。

**(歯科医師会 藤原委員)**

ここまで二点問題が出た。一点目は、乳幼児のむし歯の罹患率が高いということについて、健診の時点では遅いということ。歯科医師会では、妊婦歯科健診を推進しているが、母親だけでなく父親にもそういった事を進めてはどうかと思った。その辺りについて、県の方で妊婦歯科健診だけでなく、両親保護者等にも何かしらの機会を与える事を考えていただきたい。もちろん我々も協力する。二点目は、コロナ禍において自宅での生活習慣が

乱れているということ。学校での歯磨き、学校でのフッ化物洗口がどれだけ必要なものだったかを改めて分かったと思う。そのようなことから、学校だけでなく自宅での生活習慣も身につけられるような指導を進めていかななくてはいけないのではないかと。

## **（５）報告**

### **②特定健診・がん検診の受診率向上を目指す取組について**

**（健康づくり推進課 石川政策監）**

資料２について報告させていただく。コロナウイルス感染症拡大の中で、今年度市町村が実施する特定健診・がん検診のスケジュール変更や一部中止、また感染の心配から受診者が減少していることが懸念されている。がんや生活習慣病の早期発見、早期治療には定期的な健診受診が必要であることを周知、啓発する活動を今年度の９月補正予算事業により取り組んでいる。来年度の健診日程が住民に案内されるこの１月から３月を集中期間として取組を実施している。メディアによるテレビコマーシャルや新聞広告、県のホームページ等へ掲載している。資料２のチラシはその取組の一つ。このチラシを２５万部作製し、先月から市町村や県の健康づくり県民運動推進協議会等、関係機関のネットワークを活用し、組織的に県民に向け集中的に働きかけを行っている。受診率向上のため、この取組のご理解とご協力をお願いする。

**（歯科医師会 藤原委員）**

コロナ禍で特定健診、がん検診だけでなく、生活習慣病を予防するという意味で歯磨きをする、食べ方に気をつけるなど馴染みのある事を少し入れると取り組みやすいのではないかと。

## **（６）議題 令和３年度歯科保健対策施策について**

### **① 秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例の一部改正について**

**（健康づくり推進課 田所技師）**

資料３に記載のとおり、今年度２月議会にて秋田県歯と口腔の健康づくり推進条例の一部改正がされ、令和３年４月１日から施行されることが決まった。改定理由としては、健康寿命延伸を図るため歯と口腔の健康づくりの推進に関する基本的施策を充実させる必要があるためである。また、これは議員提案の条例であり、関係する先生方の声によって実現した。変更点は資料に記載の３点である。オーラルフレイルについては、まだまだ十分な周知がされていなく、来年度以降、より力を入れて啓発を行っていきたいと考えている。

歯科に限ったことではないため、幅広く県民にわかりやすい形で事業実施していきたい。  
委員の先生方にも是非ご協力をいただきたい。

②フッ化物洗口について

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料4により説明)

③親子よい歯のコンクールについて

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料5により説明)

④8020いい歯の表彰について

(健康づくり推進課 田所技師)

(資料6により説明)

(歯科医師会 藤原委員)

事務局から説明のあったとおり。まずは、条例の改正について意見はないか。オーラルフレイルの事業については、なにか具体的に決まっているのか。

(健康づくり推進課 西尾主幹)

現在検討しているのは、まずはオーラルフレイルを知ってもらうということが第一で、PRを検討している。伝える先にきちんと分かっているため、伝えていく方にある程度の知識を持ってもらうことも必要。そのあたりをどうするか、マスメディアを使った方法なども検討している。県の事業のため、議会を通してのこととなる。知事選の関係で、6月議会を通してからの実施となるため、本格的に事業となるのは7月以降となる。

(歯科医師会 藤原委員)

条例施行は4月1日からで、本格的に事業となるのは7月以降ということで承知した。  
次に、フッ化物洗口について何か意見はないか。

(学校保健連合会 佐々木委員)

今年度はコロナ禍ということで、フッ化物洗口の実施において慎重になった学校が多かったようだ。幸いにも、実際に中断している学校は能代山本地区では小学校16校中7校が中断、由利本荘では18校中1校中断しているのみとなっている。秋田市においては、大規模校が多いにもかかわらず、中断している学校がない。その理由として洗口のやり方が他の地区と違い、生徒が自分の机で洗口し、紙コップに洗口したものを吐き出すため、



集合することなく密になりにくいということから中止せずに実施されている。ただし、歯みがきについては違うようだ。健診時、口腔内が汚れており、驚いて養護教諭に尋ねると、給食後歯磨きをしていないとのことだった。秋田市内の小学校に問い合わせると、43校中7校が給食後の歯磨きをしていなかった。この決め方は学校ごとではなく、学年ごとに決めているようで、同じ学校でもやっている学年とやっていない学年があるということ。秋田市内は大規模校が多いため、人数の多い小学校では歯磨きをしていないという状態だった。本日は校長会の方もおられるので是非小学校、中学校での給食後の歯磨きを行ってもらえるよう取り計らっていただきたい。

**（歯科医師会 藤原委員）**

では次に、親子よい歯のコンクールについて意見はないか。

**（歯科医師会 畠山委員）**

このコンクールの評価についてだが、子どもは評価しやすいが、親の評価が難しい。何年か診査をしたが、親の口腔内の状態がかなり良い。保健所ごとの扱いの違いもあると思うが、評価をどこにするかについてどう思うか。

**（健康づくり推進課 田所技師）**

保護者が20～30歳代で、その方々が秋田県民だとすれば、10～20年前は本県の12歳児のむし歯本数が全国下位であった世代であることから、ある程度は治療痕で絞られてくると思う。また、定期的な歯科健診受診の有無や歯磨き習慣等の歯科保健行動の重要性は高く、その点も評価することになると思う。

**（歯科医師会 畠山委員）**

大曲仙北地区からは一組か二組の親子しか推薦がなかった時期もある。ある程度の指標がないと推薦できないのかなと思う。今後指標を作るのか、各地区の担当歯科医で判断して良いものか。

**（健康づくり推進課 田所技師）**

既に評価基準はあるかと思うが、診査は歯科医師会に委託しているので、先生方である程度の基準、評価の仕方については必要に応じて再度議論いただき、実施要綱等にも反映させ、より良い形を探っていければと思う。また、表彰対象者について、コロナ禍で表彰を受けられなかった親子についても柔軟に対応させていただきたい。

**(歯科医師会 藤原委員)**

承知した。

**(学校保健連合会 佐々木委員)**

８０２０いい歯の表彰について、親子よい歯のコンクールにも関連するが、表彰事業というのは勉強やスポーツができるなど特定の才能について表彰される場合が多い。健康に対して表彰されるという本事業は非常に貴重だと思う。日々積み重ねた結果が健康につながっている。年をとれば表彰されることも少なくなる。一人でも多くの人に参加してもらい、今後の健康につなげてもらいたい。

**(健康づくり推進課 田所技師)**

親子よい歯のコンクールについては、子どもの数も減少し、全員に賞状と記念品を贈ることは可能だと考えている。しかし、８０２０いい歯の表彰については、御高齢の方がどんどん増えていく中で、今後は１００歳以上の方が表彰の対象になることも考えられる。８０歳がゴールとは考えていないが、８０歳で一つの区切りとして、８０歳の方々を表彰し、それ以降の年代についてのフォローは別の形で行うことが良いか、それともこれまで同様８０歳以上の方も表彰するのか、その際、毎年表彰なのか、５歳刻み等にするのか、委員の皆さんの意見を伺いたい。

**(歯科医師会 藤原委員)**

高齢者の表彰について何か意見はあるか。

**(栄養士会 明石委員)**

個人的な感覚だが、８０歳は一つのラインだと思う。今後、数が増えた時に予算がついてくるのかを考えると、８０歳に一度の表彰という形で良いのではないかと思う。在宅訪問に行くことがあるが、施設の方と在宅の方との口腔の格差が見られる。施設は口腔ケアに力を入れているところが多く、口の中がきれいになってきている。もっと若いうちからの予防に力を入れてもらい、オーラルフレイルの予防の方に予算を使ってもらいたい。

**(牛島ルンビニ園 石井委員)**

一つのラインとして８０歳で表彰するのは良いかと思う。高齢者にとっての一年は貴重で、８０歳に一度で終わってしまうと、この先の生きがいや目標を失ってしまう可能性もある。８０歳で一度表彰し、その後５年のラインを引いて８５歳、９０歳、９５歳と５年おきにでも表彰するとより活気づいてくれるのではないか。



**(小・中学校長会 伊藤委員)**

5年ごとの表彰も良いと考える。今後予算が許すのであれば、変更することもあるかと思うが、まずは5年ごとに表彰することで良いと思う。

**(学校保健連合会 佐々木委員)**

8020いい歯の表彰だが、口腔内の状態が良い方は毎年決まった人になってしまう。80歳以上で一度表彰できる条件にし、その後5年ごとで良いかと思う。

**(社会福祉協議会 鈴木委員)**

8020を健康の生きがいづくりとして、80歳をラインに5歳刻みで実施していくのも良いと思う。

**(歯科医師会 畠山委員)**

定期的に歯科医院に通っている人もいるかと思うが、年一回表彰のために受診する人もいる。記念品の金額はわからないが、コストダウンを考えると、立派な賞状を貰って喜ぶ人ばかりではなく、立派でなくとも、免許証のようなカードでもいいので、一年に一回認定し表彰してほしい。

**(看護協会 吹谷委員)**

私自身も退職してから、80歳で20本残さなくてはという意識がでてきた。80歳まで自分でコントロールできるということが大事だと思う。そういう意味でも80歳の区切りは良いと思う。

**(歯科衛生士会 甫仮委員)**

80歳過ぎて初めて歯科医院にかかった場合も対象としてほしい。80歳以上で一度表彰し、その後の励みがなくなるというのであれば、何年かおきに定期健診してるかなどの便りを出すのも良いのではないかな。

**(歯科医師会 藤原委員)**

委員の意見を受けて、事務局から何かあるか。

**(健康づくり推進課 武藤課長)**

貴重な意見をいただいた。初めの提案は80歳一度限りとしていたが、オーラルフレイル予防の条例改正や健康寿命日本一を目指していることを考えると、もう少し励みになるような節目があっても良いと感じた。一方で、今の80歳は大変元気で、どこまで区切りを設ければ良いのかは、現場感覚を持っている臨床の先生方と検討が必要と思う。もう少し

し時間をいただいて先生方と相談しながら考えていきたい。余談になるが、３年ほど地方の所長を経験していた。その際、９月の敬老の日に地域の１００歳の方へ総理大臣の表彰状を持って世帯を回っていた。副賞の銀杯だが、平成２８年までは本当の銀を使っていたが、１００歳が非常に増えてきたということで平成２９年からは残念ながらレプリカのメッキになってしまった。財政のこともあるのでこのあたりとも合わせながら考えていきたい。

**（歯科医師会 藤原委員）**

様々意見をいただいた。これで議事を終了する

**（７）閉会**

**（健康づくり推進課 西尾主幹）**

以上で閉会とする。